

4月17日・18日に本校6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語科・算数科・理科の3教科の学力調査と同時に、学校・家庭での過ごし方や家庭学習の様子等を問う調査も実施されています。本校の児童の状況について、学習の様子だけでなく、生活の様子と学力との関係などにも触れてお伝えしたいと思います。

総合結果（国語・算数・理科）

国語、算数、理科のすべてにおいて全国平均を上回っており、過去に3教科の調査が実施された7年前・3年前と比べると、全国平均を上回る差が着実に大きくなっています。また、3教科とも、「思考・判断・表現」の観点において結果が特に良好であることが特徴的です。これまでの学習を通して、資料から読み取った情報や聞き取った他者の意見などをもとに、自分でしっかり考えを深め、述べたいことを整理し、的確に表現する力がついていくことがわかります。

国語科について

「話す・聞く」「書く」「読む」どの内容も全国平均を大きく上回るとともに、バランスよく力をつけていることがわかる結果となりました。特に、自分の考えが伝わるように表現する方法を工夫する力が高く、あらゆる教科等の学習の中で、相手意識を大切に話したり聞いたりする活動を重視して取り組んできた成果が表れています。また、言葉の特徴や使い方に関する事項について、これまでの課題が改善してきています。

一方で、今回の調査では、長文を読み取ったり、複数の資料を読み比べたりしながら問題に取り組む場面が多く、難しさを感じた児童もいたようです。言語の意味や問われていることに着目しながらしっかり考える力を高めていくことが大切です。

算数科について

どの領域も全国平均を上回り、国語科と同様、バランスよく力をつけています。特に、答えの求め方について、式や言葉を用いて記述式で回答する力が高いことがわかりました。これは、日頃から、答えを求めて終わるのではなく、考え方についてまとめたり話し合ったりする活動を重視している成果であると考えられます。

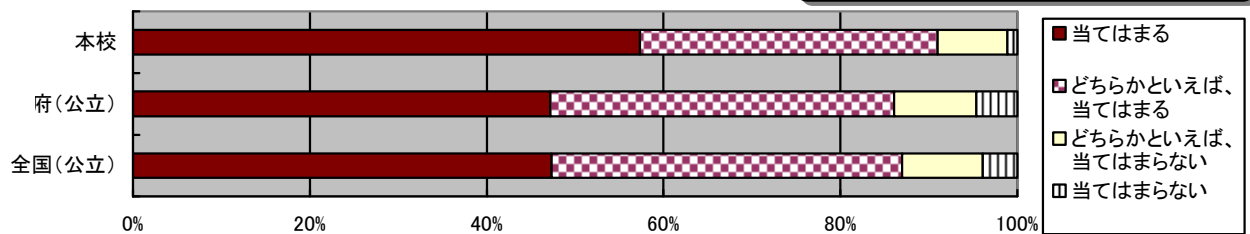
一方で、計算はできても、計算の意味・数や量がもつ意味については、理解が不十分であったり、理解していても活用ができていなかったりするという課題が見られます。基本的な学習内容についてより確かな理解・定着を図れるよう、授業と家庭学習とを連動させたり、知識を適切に活用する活動に取り組んだりすることが大切です。

理科について

今年度は、理科の問題も出題されました。どの領域も全国平均を上回る結果で、成績は良好でした。特に、条件を正しく設定した実験の方法を発想し、その発想を適切に表現する力が高いことがわかりました。児童質問紙の回答からも、「実験や観察の結果から、どのようなことが分かったのか考える経験が多いこと」「実験の結果を予想したり仮説を立てたりして考える経験が多いこと」などがわかりました。理科の授業の中で、実験や観察及びそれに伴う思考・判断・表現に関わる活動を確実にを行うことを通して力を高めていると考えられます。一方で、「この実験は、調べたいことがわかる実験になっているだろうか」などと懐疑的に考える児童は、7年前・3年前の調査と変わらず、やや少ないことも明らかになっており、その状況が今回の理科の問題の回答傾向にも反映されていました。実験や観察などの活動に終始するだけでなく、より探究的に学ぼうとする姿勢を大切にしていくことが必要であると考えます。

Q 自分には、よいところがあると思いますか。

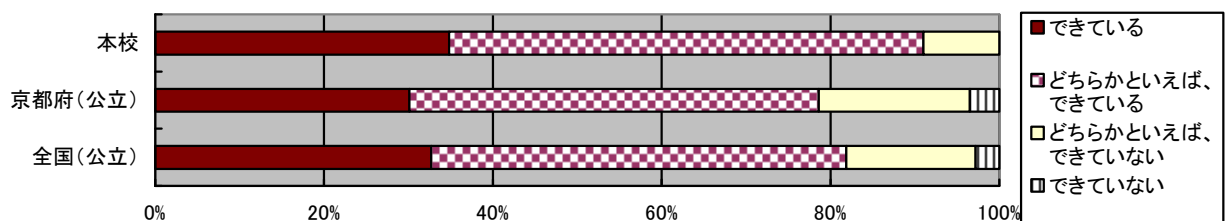
児童質問紙調査から



令和3年度・5年度にも、この設問をとり上げて結果をお伝えしています。本校では、令和3年度より「児童の自己肯定感の向上」を重点課題として取組を続けています。その中で、「全国学力・学習状況調査」や「子どものためのアンケート」等により、児童が認識する「自己肯定感」について分析を続け、取組に生かしてきました。「全国学力・学習状況調査」の児童質問紙においては、令和3年度から今年度までの5年度において、この設問に対する本校児童の肯定的な回答（「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」の回答）の割合が着実に増加しています。

本校ではこれまで、自己肯定感向上を目指して「互いに認め合える集団をつくる」「がんばりぬく・やりきる強い自分をつくる」「わかりやすい授業をつくる」を柱に取り組んできました。今後はさらに、地域や家庭と学校が連携・協力して、児童のよさやがんばりをいっしょに認めていくことも大切にながら、取組を進めていきたいと思っています。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

Q 分らないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



昨年度はこの設問をとりあげて、やや課題がある結果であることをお伝えしました。今年度は、否定的な回答がかなり少なくなり、肯定的な回答が全国・京都府平均をそれぞれ上回りました。児童の主体的に学ぶ意欲が高まっていることがわかります。本校では、自己肯定感を高める上で、「学びの主体性」「自己調整力」にも着目しています。昨年度から実施している本校版「家庭学習スタンダード」では、家庭学習を充実させ、この「学びの主体性」「自己調整力」が高まることを期待しています。そして、自分の課題を正しく認識し、自分の学びについて内容や方法を自身で調整しながら主体的に学習を進めることによって、確かな学力を身につけることができる児童に育っていくことを願っています。

保護者の皆様へ

この調査は、児童の学習状況を知り、一人一人の可能性を更に伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、ご家庭や地域の方々の児童への関わりや支援の成果が表れています。心から感謝申し上げます。

引き続き、児童の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をよろしくお願いいたします。